

そしき活動ニュース

2009/12/29
年末号外

緊急「なんでも相談会」を開催 (24日 10:00～16:00)



県内各地で民医連の仲間たちが中心となって、生活に困窮した人たちを支える活動が計画されています。

飯伊地域の「反・貧困ネット」では、食料の提供を伴う支援活動は行わないものの、21日にこの間の相談事例を持って、飯田市の福祉事務所や労政課と懇談を持ち、24日には「なんでも相談会」を鼎文化センター内で行いました。



健和会病院の医師・看護師には待機をお願いし、MSW、地区労連、ネット事務局、緊急に対応できるようにと共産党の市議員3名を加えて相談に応じました。

<事例1> 60歳・単身男性。仕事中のケガで離職。その後は仕事が無く収入は0円。秋田に住む90歳近い親からの食料の仕送りで生活、家賃滞納と電気が止められている状況。民生委員や福祉課には相談している。その場で福祉課の担当者に電話、状況を説明「電気が無いことは初めて知った。状況をもっと調査して対応したい」との返答、相談日程の確認までした。

<事例2> 55歳・単身男性。6月から失業。家賃5ヶ月(17.5万円)滞納。電気・ガス・水道が止められている状況。市議員が同行して、生活保護・生活資金の申請と水道課とHワークに直行！2日間の食料とHワークを貸与した。

<事例3> 87歳単身女性。年金約6万円/月と水引の仕事で生活。家賃“8万円の賃貸住宅の滞納が2年近くあり年末に家賃代として50万円の督促がありお金を借りたい”という相談。生活保護の申請と公営住宅に移り住む計画を進めたところ、「人様の援助で生きてはいけない」と拒否された。市議員同行で社協の生活資金貸し付け相談に行ったが、65歳以上は対象外とのこと。対策が無いまま帰宅。その後、自宅訪問したが会えず電話で会話をした。しかし寝込んでいた。心配な事例(民生委員に相談予定)。

<その他の事例>

- * 失業。仕事がない(47歳、58歳)
- * 68歳男性、一人暮らしで今後の生活に不安がある
- * 義理の母の介護相談。 包括支援センターを紹介

「失業による生活困窮者に対する「保障制度」を活用してほしい。」(裏面は総合支援策)

今年の6月17日に結成した「くらしと健康を守る反・貧困飯伊ネットワーク」で、この間に対応した事例を持って(医療相談が2件、労働相談28件、そして生活相談13件とその他、併せて44件余)21日に飯田市の福祉事務所や労政課と懇談を行いました。

事例紹介(住居引き渡しの強制執行や自己破産に至る事例、生活保護に至った事例、そしてホームレスの方への住宅確保、労働相談の特徴は「収入を得る仕事が欲しい」ということがほとんど)をし、相談には誠意を持って対応して頂くよう要請しました。また、ハロワークから発信される状況や身の回りの状況から、来る年末年始に深刻な事態になりかねない方が少なく無いことから、“いのちに関係するようなことを避ける”飯田市の対応を確認しました。

- * 雇用保険の失業給付受給者は現在1,261名
- * 福祉課の生活相談員を増員
- * 年末年始の生活相談は12/29、30日は福祉事務所で、それ以外は宿日直対応
- * 住宅相談(ホームレスは避ける)は建設課で対応。緊急時の対応として市営住宅9戸(上村)確保し、市税の滞納は問わない
- * 期限が切れた短期保険証を持参した受診者には、問い合わせをしてか10割でなく3割負担の対応をしてほしい。
- * 雇用保険を受給できない方への緊急対策(事業)の推進
「生活困窮者への保障事業を知らないで、深刻な事態になることは避けたい、福祉事務所でもアンテナを高く掲げたい」(原福祉部長談)